

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700175		
法人名	医療法人 天心堂 志田病院		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	佐賀県鹿島市大字中村2191-2		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年12月3日	外部評価確定日	平成28年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように、利用者様とのふれあいを大切に、生きる喜びを共有し、いつも笑顔で生活して頂ける様に支援している。家族様が安心して頂ける様に、面会時には日常の状況や健康面の事等こまめに報告し、特変時には電話を入れて報告している。家族様とのよりよい関係作りに力を入れ、継続的に家族会を行い利用者様と一緒に楽しい一時を過ごして頂くようにしている。またさくら荘だよりを発行し、日々の生活状況を写真等で知らせている。利用者の高齢化・介護度の重度化に伴い、看取りの希望が増え最期の住処として選んで頂いている。その為に、介護と医療が同時に提供出来る様に、法人の医療スタッフと連携をとり、また職員は勉強会に積極的に参加し個々がスキルアップに努めている。地域密着型と言う事で、2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、また近隣の方の踊りのボランティアの受け入れを積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

平成15年の開設で、今年で12年目を迎えている事業所である。母体である法人が10年後を見据えての「地域に安心と豊かさを」を理念としており、事業所(さくら荘)も地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム創りに努めている。それだけに地域との結び付きも強い。理念に基づき「利用者様とのふれあいを大切に、常に笑顔で、安らぎのある生活が送れるよう」日常の支援に臨んでいる。職員の常に笑顔のある支援は利用者と家族に、ゆっくりと暮らせる、面会にも行きやすい、相談もしやすいし何でも言える等の気持ちをもたらしている。病院がすぐ近くにあり、24時間何時でも診てもらえることは健康面からも家族は安心感を抱いている。利用者や家族の希望により最期の住み処として看取り介護を行っている。家族と主治医を含む医療スタッフとの連携への支援も十分である。そして、家族や職員のケアまで配慮している。 家族会の開催や利用者の思いの把握、食事についての聞き取りアンケート、また、家族へのアンケートは声なき声に耳を傾け、更に質の高い支援を目指しての一つの機会としている。「さくら荘便り」「運営推進会議便り」は家族にも好評である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のモットーは毎日を笑顔で生活して頂く事である。毎朝朝礼時に運営理念を唱和し、その実現に日々精進している。	理念のモットーは毎日を笑顔で生活して頂く事である。毎朝朝礼時に運営理念を唱和し、その実現に日々精進している。	10年後を見据えた理念が検討されている。毎朝、理念と月目標を唱和することで、全職員が心をつづにして日常の支援が行われている。理念、目標の具体的ななどについて、管理者は適切に指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治体の一員として回覧板を回して頂き、こちらの行事の案内などもさせて頂いている。また公民館掃除や溝掃除等地域行事にも参加させて頂いている。	地域自治体の一員として回覧板を回して頂き、こちらの行事の案内などもさせて頂いている。また公民館掃除や溝掃除等地域行事にも参加させて頂いている。	職員は、主に早朝に時間を見つけて地域の公民館掃除や溝掃除をしている。近隣の商店に利用者と買い物に出かける機会に地域の人と挨拶や言葉を交わすことも多々ある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さくら荘独自では行っていないが、法人として出張健康教室を開催している。依頼があればさくら荘の職員が参加している。今年度はまだあっていない。	さくら荘独自では行っていないが、法人として出張健康教室を開催している。依頼があればさくら荘の職員が参加している。今年度はまだあっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、生活状況や行事などをスライドで紹介しさくら荘の実態を理解して頂く様に努めている。また意見等を言って頂くように努めている。今年度より運営推進会議新聞を作成し家族様へ送付している。	2ヶ月毎に開催し、生活状況や行事などをスライドで紹介しさくら荘の実態を理解して頂く様に努めている。また意見等を言って頂くように努めている。今年度より運営推進会議新聞を作成し家族様へ送付している。	利用状況や行事、利用者の暮らしなどがスライドも使って報告されている。委員からも地域の行事のお知らせ、事業所に対する地域の声、公民館掃除等へのお礼の言葉、家族会行事の事など様々な意見や質問が出されており、極めて有意義な会議になっている。運営新聞会議新聞も発行している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、現状を伝えている。	運営推進会議に参加して頂き、現状を伝えている。	後見人に関することや待機者情報等について、必要に応じて行政に出かけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待の勉強会を実施し、身体拘束とはどういうものなのかを理解し、利用者の立場にたったケアをするように努めている。医療安全委員会で検討会実施している。	身体拘束・虐待の勉強会を実施し、身体拘束とはどういうものなのかを理解し、利用者の立場にたったケアをするように努めている。医療安全委員会で検討会実施している。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有意識を図っている。身体拘束の事例も無い。玄関の開放と利用者の出入りに対しての職員の見守り、人感センサーの取り入れ、言葉による拘束がないケアを心がける等、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、入浴時等に体の異変が無いチェックしている。また言葉による虐待はないかなど、接遇教にも力を入れ	勉強会を実施し、入浴時等に体の異変が無いチェックしている。また言葉による虐待はないかなど、接遇教にも力を入れ		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施した。現在活用されるような対象者はいっしょやらない。	勉強会を実施した。現在活用されるような対象者はいっしょやらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院治療の為に退去による契約解約がある。その場合主治医と家族様、職員と話し合いをもち、納得の上で契約解約となっている。退去後も入院時の洗濯物など出来るだけの協力を行っている。	入院治療の為に退去による契約解約がある。その場合主治医と家族様、職員と話し合いをもち、納得の上で契約解約となっている。退去後も入院時の洗濯物など出来るだけの協力を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の定期的なアンケートを実施し、質問と其の回答を公表している。	年2回の定期的なアンケートを実施し、質問と其の回答を公表している。	何よりも笑顔で利用者や家族と接することを大事にし、面会時に声をかけ意見等を聴くことが多い。特に利用者や家族が第一印象として感じる笑顔を大事にしている。家族アンケートは、集計後会議で検討し、その後の運営に反映させている。家族会は年3回開かれて	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の定期的なアンケートを実施し、具体的な案を出して頂く様な内容になっている。	年1回の定期的なアンケートを実施し、具体的な案を出して頂く様な内容になっている。	毎日の打ち合わせや日常の業務の中、定例の会議、勉強会、アンケート、個人面談等職員が意見を述べる機会が多く、職員は忌憚なく考えを述べている。パソコンを使ったりハビリやダンスを取り入れたレクの提案を検討する等運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施し、スキル評価を行っている。年度始めに目標を立て、それを実践できるようにサポートしている。有給休暇も取れるような体勢作りをしている。	人事考課を年2回実施し、スキル評価を行っている。年度始めに目標を立て、それを実践できるようにサポートしている。有給休暇も取れるような体勢作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護保険部合同の勉強会やさくら荘独自の勉強会を実施し参加して頂いている。また、eラーニングやSQU-E勉強会も取り入れている。	介護保険部合同の勉強会やさくら荘独自の勉強会を実施し参加して頂いている。また、eラーニングやSQU-E勉強会も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島・太良・塩田地区のグループホーム交流会を毎月実施し、情報交換や勉強会、また利用者様同士の交流会を実施している。	鹿島・太良・塩田地区のグループホーム交流会を毎月実施し、情報交換や勉強会、また利用者様同士の交流会を実施している。		

自己 外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会に行き、本人様と話をして要望や不安材料は何か等を聞く様にしている。また事前に施設見学をして頂く様にしている。	入居前に面会に行き、本人様と話をして要望や不安材料は何か等を聞く様にしている。また事前に施設見学をして頂く様にしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から入居までの経緯や苦労話を聞いて共感しねぎらいの言葉をかけ、なんでも話しやすい環境と関係作りに努めている。	家族様から入居までの経緯や苦労話を聞いて共感しねぎらいの言葉をかけ、なんでも話しやすい環境と関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険以外のデイサービスなどの利用の希望時は話し合って希望を叶えている。リハビリの希望時などは法人内のリハビリ部に相談し、さくら荘でできるリハビリを計画し実施している。	介護保険以外のデイサービスなどの利用の希望時は話し合って希望を叶えている。リハビリの希望時などは法人内のリハビリ部に相談し、さくら荘でできるリハビリを計画し実施している。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な食事作りの手伝いや洗濯物たみやテーブル拭きなど一緒にしていたが、介護度の重度化に伴い、できる方が減ってきた。	簡単な食事作りの手伝いや洗濯物たみやテーブル拭きなど一緒にしていたが、介護度の重度化に伴い、できる方が減ってきた。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の希望を家族様へ伝え、協力できることは積極的に行っている。外泊時など送迎を行っている。	利用者様の希望を家族様へ伝え、協力できることは積極的に行っている。外泊時など送迎を行っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも来ていただくように雰囲気作りを力を入れている。希望時は車で送迎している。	面会はいつでも来ていただくように雰囲気作りを力を入れている。希望時は車で送迎している。	近所の散歩や近くの店での買い物の時に 出会う地域の方々から気軽に声をかけていただける関係がある。利用者の生活の場であった海へ出かけることもある。また、かつての役職や仕事等を通じた知人の訪問も多くある。本が好き な方へは図書館の利用も考えている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なだけホールで過ごしていただき、会話の取り次ぎをしたりして、コミュニケーションが一方通行にならないようにしている。テーブルの座位位置など馴染みの関係をみながら固定している。	なだけホールで過ごしていただき、会話の取り次ぎをしたりして、コミュニケーションが一方通行にならないようにしている。テーブルの座位位置など馴染みの関係をみながら固定している。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のため契約終了後も家族様の状況によっては洗濯物の回収、洗濯を継続している。	入院治療のため契約終了後も家族様の状況によっては洗濯物の回収、洗濯を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なかなか自分の思いを言える方が少ないので、日頃の会話の中で本人様の希望や思いを聞き出すようにしている。	なかなか自分の思いを言える方が少ないので、日頃の会話の中で本人様の希望や思いを聞き出すようにしている。	一人ひとりに寄り添いながら意向を把握するように努めている。言葉を発せない方の思いを感じる勉強会もしている。笑顔、興奮、ちょっとした動作についても情報を共有し、その所以と思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係など情報収集し把握に努めている。家族様との良好な関係作りに力を入れ、関係作りができたところで本音などを聞き出している。	入居前に家族様や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係など情報収集し把握に努めている。家族様との良好な関係作りに力を入れ、関係作りができたところで本音などを聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は固定にし顔なじみの関係作りに努め、個々の状態把握に努めている。月1回のケースカンファレンス時に報告しあい、情報の共有に努めている。	職員は固定にし顔なじみの関係作りに努め、個々の状態把握に努めている。月1回のケースカンファレンス時に報告しあい、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行い、ケアプランは6ヶ月ごとに検討会を実施し更新行っている。家族様や本人の希望、意向を伺い、主治医からは医療面の意見を聞いて計画を立てている。	モニタリングは毎月行い、ケアプランは6ヶ月ごとに検討会を実施し更新行っている。家族様や本人の希望、意向を伺い、主治医からは医療面の意見を聞いて計画を立てている。	入居にあたって家族にもじっくりと話を聴き、利用者がよりよく暮らしていけるようにと、具体的に利用者の実情に即した介護計画が綿密に作成されている。利用者の状況に合わせた評価と見直しは、随時、または、定期的にきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人の状態の記録を個人のケース記録に記入し、また職員が情報を共有すべきことは介護日誌に記入している。モニタリングや評価は毎月行っている。	毎日、個人の状態の記録を個人のケース記録に記入し、また職員が情報を共有すべきことは介護日誌に記入している。モニタリングや評価は毎月行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中は面会に行き、状態把握に努めたり、洗濯物の管理を行っている。眼科や皮膚科受診など家族が付き添えないときはこちらで行っている。自宅への送迎も行っている。	入院中は面会に行き、状態把握に努めたり、洗濯物の管理を行っている。眼科や皮膚科受診など家族が付き添えないときはこちらで行っている。自宅への送迎も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は行っていない。	地域資源の活用は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名のみ家族様の意向で他の病院が かかりつけであり、家族様と情報を密に とって対応している。病院併設が一番 安心感があるとの意見が多い。あとは 当院がかかりつけである。	1名のみ家族様の意向で他の病院が かかりつけであり、家族様と情報を密に とって対応している。病院併設が一番 安心感があるとの意見が多い。あとは 当院がかかりつけである。	利用者と家族が希望するかかりつけ医 での受診であり、家族も安心感をもっ ている。協力医療機関とは何時でも連 絡、相談ができる。また、毎週、主治医 と看護師の訪問診察があっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等 に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や 看護を受けられるように支援している	定期的に2週間に1回の訪問診療と、 それ以外に1週間に1回担当看護師が 来荘され健康面の把握や相談にのっ ていただいている。緊急時には外来、病 棟との連絡体制もできている。	定期的に2週間に1回の訪問診療と、 それ以外に1週間に1回担当看護師が 来荘され健康面の把握や相談にのっ ていただいている。緊急時には外来、病 棟との連絡体制もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。又 は、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	入院時職員が付き添い、日頃の状況を 説明している。当院に入院された場合 は毎日面会に行き、状態を聞き、洗濯 物も毎日行っている。当院以外でも2、 3日おきに面会にいらっている。	入院時職員が付き添い、日頃の状況を 説明している。当院に入院された場合 は毎日面会に行き、状態を聞き、洗濯 物も毎日行っている。当院以外でも2、 3日おきに面会にいらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所ですることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組 んでいる	入居時に看取りを行っていることを説明 し、その時期が来たら再度主治医・家 族様・看護師・職員と話し合いをもち、 看取りを希望された場合は、当法人の 外来・病棟との連携を密にとるようにカ ンファレンス時に報告行っている。	入居時に看取りを行っていることを説明 し、その時期が来たら再度主治医・家 族様・看護師・職員と話し合いをもち、 看取りを希望された場合は、当法人の 外来・病棟との連携を密にとるようにカ ンファレンス時に報告行っている。	入居時に指針を基に納得のいく話し合 いが行われている。看取りを希望する 家族もあり、関係者が状況の変化に応 じて緊密な連携を取りあひながらの看 取りである。スタッフの精神的な負担も あり、職員のケアにも留意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方などの勉強会 行っている。急変時のマニュアル作成し 見やすいところに設置している。	緊急時の対応の仕方などの勉強会 行っている。急変時のマニュアル作成し 見やすいところに設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。非常 連絡網には地域の方や区長様の連絡 先も明記している。	避難訓練は年2回実施している。非常 連絡網には地域の方や区長様の連絡 先も明記している。	消防計画やマニュアルに基づいて、避 難訓練を年に2回、夜間の火災を想定 して、夕方の時間帯に実施している。近 所の応援も得ている。自然災害を想定 しての食糧や水等の備蓄もある。	

自己 外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族様の意向を尊重し、外出や行事などには許可を得ている。接遇の勉強会を実施し、言葉掛けには注意している。	家族様の意向を尊重し、外出や行事などには許可を得ている。接遇の勉強会を実施し、言葉掛けには注意している。	利用者のその人らしい姿を大切にすることをケアの基本にしている。支援が必要な場面でもさりげない言葉かけや自己決定しやすい言葉かけ、対応が見受けられる。また、個人情報もきちんと管理されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分の思いを表現できる方が少ない。散歩に行く際も、意向を聞いてから誘うようにしている。	なかなか自分の思いを表現できる方が少ない。散歩に行く際も、意向を聞いてから誘うようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物の希望があるときは、時間を調整して付き添うようにしている。希望を言える方が少ない。	買い物の希望があるときは、時間を調整して付き添うようにしている。希望を言える方が少ない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには十分に注意している。行事などのときには化粧をしたりしている。	身だしなみには十分に注意している。行事などのときには化粧をしたりしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りした後片付けと一緒にされる方は少ない。食事はとても楽しみにされている。土曜日の昼はおたのしみメニューとして希望を聞いて献立をたて調理している。	食事作りした後片付けと一緒にされる方は少ない。食事はとても楽しみにされている。土曜日の昼はおたのしみメニューとして希望を聞いて献立をたて調理している。	職員も同じ食卓について、さりげなく見守りながら食事を一緒にいただいている。利用者に食事についての聞き取りアンケートを行い、食事支援に活かしている。調理の音や匂い等は五感を刺激し、旬の食材と共に食事は利用者の楽しみでもある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方に対しては、栄養部と相談して、補助食品の提供など行っている。水分摂取量が少ない方に対しては、コーヒー牛乳など好みのものを提供したり、汁物を多めに提供したりしている。	食事摂取量が少ない方に対しては、栄養部と相談して、補助食品の提供など行っている。水分摂取量が少ない方に対しては、コーヒー牛乳など好みのものを提供したり、汁物を多めに提供したりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行っている。定期的に法人内の摂食嚥下委員会よりラウンドしていただき、口腔内の状況など見ていただいている。勉強会も開催していただいている。	毎食口腔ケアを行っている。定期的に法人内の摂食嚥下委員会よりラウンドしていただき、口腔内の状況など見ていただいている。勉強会も開催していただいている。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを確認しトイレ誘導している。なるべくオムツを減らすように、いろいろ試しながら工夫し行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを確認しトイレ誘導している。なるべくオムツを減らすように、いろいろ試しながら工夫し行っている。	排泄回数、場所、用具、排便、おむつ等の排泄に関するケアチェックや細やかな観察で一人ひとりの排泄に関する状況が把握されている。布おむつに変わったり、回数が減った利用者もある。その場合もまずは試行してからの変更である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを確実にし、下剤の調整や冷たい牛乳やバナナ牛乳などを飲んでいただくようにしている。	排便チェックを確実にし、下剤の調整や冷たい牛乳やバナナ牛乳などを飲んでいただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	介護度の重度化に伴いリフト浴を設置し、安全に快適に入っていたい。	毎日入浴希望の方に関しては毎日入っていたい。介護度の重度化に伴いリフト浴を設置し、安全に快適に入っていたい。	お湯の準備は毎日できており、希望する利用者は何時でも入浴出来る。入浴順序、時間等に特別な制限は無く、ゆっくりとした入浴である。リフト浴による支援は利用者にとっても安全で楽な入浴であり、職員の負担軽減にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休息を希望される方以外はソファや畳のところで休んで頂いている。ベッドからの転落の危険性がある方は居室に畳を設置して布団を敷いて休んで頂いている。	自室で休息を希望される方以外はソファや畳のところで休んで頂いている。ベッドからの転落の危険性がある方は居室に畳を設置して布団を敷いて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容はケース記録に閉じている。変更があった場合は確実に申し送りを行い、ホワイドポートに記入し、状態の観察を行い主治医へ報告行っている。	処方された薬の内容はケース記録に閉じている。変更があった場合は確実に申し送りを行い、ホワイドポートに記入し、状態の観察を行い主治医へ報告行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お酒が好きだった方に対しては家族様と相談して、ノンアルコールビールなどを提供している。	腫で働かれていた方に対して近く迄家族と一緒に車で連れて行く等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩に出かけている。家族様と一緒に昔働いていた海にドライブに出かけたりしている。	天気が良い日は散歩に出かけている。家族様と一緒に昔働いていた海にドライブに出かけたりしている。	近所や広い法人内の敷地内を散歩することが多い。天気をみての日光浴や畑での土いじりをする利用者もある。また、美容室や近くの店に買い物に行くこともある。弁当を持参しての花見、保育園の運動会の応援、水堂さんでのお水汲み等、希望による外出もある。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されている方はいらっしゃらない。	2名のみ希望あり、所持されている。買い物時は付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキを書かれるためにお手伝いしている	携帯電話を持っていらしゃる方もいるが取り扱いは職員が間に入っている。取り次ぎは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節のある花などを飾っている。正月は正月の飾り付け、2月はお雛様を飾っている。	玄関には季節のある花などを飾っている。正月は正月の飾り付け、2月はお雛様を飾っている。	どちらのユニットも外からの光で明るく、静かでもある。無用な音や刺激も無い。居間には畳の間に畳があり、炬燵に入って自由に休んでいる利用者も見かけられた。室温は各居室毎に調節されていて快適である。利用者がつるした干し柿は季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーには気の合う仲間同志で座って話されている。	ソファーには気の合う仲間同志で座って話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使っていただけてくださいと家族様へ話するも、あまり持てられない。生活しやすいように本人様の意向を聞いている。	居室は自由に使っていただけてくださいと家族様へ話するも、あまり持てられない。生活しやすいように本人様の意向を聞いている。	馴染みの品物などの持ち込みに特に制限は無い。寝具も自分のものである。孫の書道作品、思い出の多い写真、感謝状、絵手紙、趣味の道具、テレビ、書籍など色々な物が見受けられた。畳が暮しやすいと畳を利用している方もある。どの居室も落ち着いてゆっくりと過ごせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、自由に動いて頂いている。	建物内はバリアフリーとなっており、自由に動いて頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	☐	☐	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	☐	☐	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	☐	☐	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	☐	☐	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	☐	☐	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	☐	☐	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない